

【2021 年度/専門科目領域/専門科目群/理学療法学科/旧カリキュラム】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
理学療法診断学		必修	2	2	前期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
三科 貴博 他	D317	t-mishina	火曜日 12:10~13:00		
授業の目的・概要	臨床場面において適切な検査・測定を実施し、機能障害の有無や程度を明らかにする技術が必須となる。理学療法診断学では、必要とされる検査・測定法を学び、適切に実践できる知識および技術を習得することを目的とする。授業は、講義の遠隔授業による同時双方型講義のほか実技を行う。				
学習上の助言	この授業では、解剖学、生理学、運動学で学んだ基礎医学分野の知識が必要となるので、復習しておくことが望ましい。				
教科書	理学療法評価学 改訂第 6 版/著：松澤 正、江口勝彦/金原出版株式会社 ベッドサイドの神経の診かた/著：田崎義昭、斉藤佳雄/南山堂 図解 理学療法検査・測定ガイド/編：奈良勲、内山靖/文光堂 上記、3 冊を使用する。				
参考書	特になし				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	問診を行うことができる。			PT (1)、(2)、(3)、(5)	
②	バイタルサインの計測を行うことができる。			PT (1)、(2)、(3)、(5)	
③	反射検査を行うことができる。			PT (1)、(2)、(3)、(5)	
④	感覚検査を行うことができる。			PT (1)、(2)、(3)、(5)	
⑤	運動麻痺の検査を行うことができる。			PT (1)、(2)、(3)、(5)	
⑥	協調性検査、脳神経検査を行うことができる。			PT (1)、(2)、(3)、(5)	
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	オリエンテーション。理学療法における診断学の意味を学習する。(担当：三科)	同時双方向	理学療法評価学改訂第 6 版 p13-25 を読んでおく。	4	
2	問診について学習する。問診について実技を行う。(担当：三科)	講義・実技	理学療法評価学改訂第 6 版 p27-32 を読んで理解する。	4	
3	バイタルサイン (意識、心拍、脈拍) について学習する。(担当：三科)	同時双方向	理学療法評価学改訂第 6 版 p39-52 を読んで理解する。	4	
4	バイタルサイン (呼吸、血圧、体温) について学習する。(担当：三科)	同時双方向		4	
5	バイタルサインについて実技を行う。(担当：三科)	講義・実技		4	
6	反射検査について学習する。(担当：駒形)	同時双方向	理学療法評価学改訂第 6 版 p131-144 を読んで理解する。	4	
7	反射検査について実技を行う。(担当：駒形)	講義・実技		4	
8	感覚検査について学習する。(担当：駒形)	同時双方向	理学療法評価学改訂第 6 版 p117-130 を読んで理解する。	4	
9	痛みの評価方法について学習する。(担当：駒形)	同時双方向		4	
10	感覚検査と痛みの評価について実技を行う。(担当：駒形)	講義・実技		4	
11	運動麻痺の検査について学習する。(担当：三科)	同時双方向	理学療法評価学改訂第 6 版 p259-287 を読んで理解する。	4	
12	運動麻痺の検査について実技を行う。(担当：三科)	実技		4	
13	協調性検査、脳神経検査について学習する。(担当：三科)	同時双方向	理学療法評価学改訂第 6 版 p 251-258、p288-298	4	
14	協調性検査、脳神経検査について実技を行う。(担当：三科)	実技		4	
15	検査を行う意義について講義をする。(担当：三科)	同時双方向	理学療法評価学改訂第 6 版 p13-17、27-32、39-52、124-144、259-287 を理解する。	4	
試	定期試験：達成度評価・評価のポイント参照				

【2021 年度/専門科目領域/専門科目群/理学療法学科/旧カリキュラム】

総合評価割合 (%)		達成度評価					合計
		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	
		100	0	0	0	0	100
総合力指標	知識・技術力	70	0	0	0	0	70
	思考・推論・創造する力	30	0	0	0	0	30
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	0	0
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	0	0
	問題を発見・解決する力	0	0	0	0	0	0
評価のポイント							フィードバックの方法
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①	✓	筆記試験を学期末に行う。試験は教科書ならびに授業内に講義した範囲から出題する。				終了後、解答を掲示し、確認に来た学生には、答案の解説を行う。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
	⑥	✓					
レポート	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
成果発表	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
その他	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
備 考							
<p>集中講義として開催する。講義は基本的に Teams を使用した同時双方向型授業とし、実技は履修者の予定を聴取したうえで計画する。履修者の都合によって、授業の順序を変更する場合がある</p> <p>担当教員：◎三科 貴博、駒形 純也</p> <p>準備：実技では身体を触知しやすい服装で授業に参加すること（ジャージ、T シャツ等）</p> <p>教員の実務経験：医療機関及び介護保険関連施設にて 8 年間の実務経験。</p> <p>実践的授業の内容：臨床現場で使用される検査、評価方法について、講義と実技で教唆する。実際の症例や使用場面に基いた工夫なども加え、臨床的視点についても指導する。</p> <p>今後のコロナウイルス感染症の状況など社会情勢によって授業形態の変更など、再度シラバスの変更がある可能性がある。また、授業の進行状況により、一部変更される場合がある。</p>							